

平成 19 年 5 月 7 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号  
虎ノ門タワーズオフィス  
フィンテックグローバル株式会社  
代表取締役社長 玉井 信光  
(コード番号：8789 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役経営戦略本部長 野瀬 泰伸  
電話番号：(03) 5733-2121

### 平成19年9月期中間期・通期の連結及び個別業績予想の修正に関するお知らせ

直近の業績動向等を踏まえ、平成19年9月期中間期・通期の業績予想については前期実績より増収増益になる見込みであります。平成18年11月15日及び平成18年12月25日に公表した今期の業績予想に達しない見込みとなりました。つきましては、業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

#### 1. 平成19年9月期中間期業績予想の修正について

連結（平成18年10月1日～平成19年3月31日）（単位：百万円、%）

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想 (A)	6,740	4,095	2,303
今回修正予想 (B)	6,151	2,422	1,222
増減額 (B-A)	△588	△1,672	△1,080
増減率 (%)	△8.7	△40.8	△46.9
(ご参考) 前期実績 (18年9月期中間) (C)	2,892	1,991	1,159
前期実績からの増減額(B-C)	3,258	431	63
前期実績からの増減率(%)	112.7	21.7	5.4

個別（平成18年10月1日～平成19年3月31日）（単位：百万円、%）

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想 (A)	5,040	3,400	1,847
今回修正予想 (B)	4,667	2,854	1,432
増減額 (B-A)	△372	△545	△414
増減率 (%)	△7.4	△16.1	△22.5
(ご参考) 前期実績 (18年9月期中間) (C)	2,853	2,076	1,224
前期実績からの増減額(B-C)	1,813	778	208
前期実績からの増減率(%)	63.6	37.5	17.0

## 2. 平成19年9月期通期業績予想の修正について

連結（平成18年10月1日～平成19年9月30日） （単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	16,850	9,968	4,603
<b>今回修正予想（B）</b>	<b>16,032</b>	<b>7,606</b>	<b>3,249</b>
増減額（B－A）	△818	△2,361	△1,353
増減率（％）	△4.9	△23.7	△29.4
（ご参考）前期実績 （18年9月期）（C）	8,231	5,581	3,235
前期実績からの増減額（B-C）	7,801	2,025	13
前期実績からの増減率（％）	94.8	36.3	0.4

個別（平成18年10月1日～平成19年9月30日） （単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	10,800	7,685	4,204
<b>今回修正予想（B）</b>	<b>10,800</b>	<b>6,975</b>	<b>3,699</b>
増減額（B－A）	0	△710	△505
増減率（％）	0	△9.2	△12.0
（ご参考）前期実績 （18年9月期）（C）	7,544	5,480	3,234
前期実績からの増減額（B-C）	3,255	1,495	464
前期実績からの増減率（％）	43.2	27.3	14.4

## 3. 業績予想の修正の理由

### (1) 中間期業績予想修正の理由

#### ①連結

当中間連結会計期間の業績については、前期実績と比較して大幅な売上増加（112.7%増）となる見込みですが、当社個別の業績の変動の他、以下の要因により収益が圧迫されたために、利益面では小幅な増益にとどまる見込みです。経常利益に大きな影響を与える要因としては、主に以下の三点があげられます。

- I. フィンテック リアルエステート株式会社における上半期売上及び各種利益予算の未達。  
（経常利益で予算比△494百万円）
- II. 株式会社エーサップ・ペイメント・システム（以下A S A P社）における営業体制構築の遅れと創業費用・システム費用負担による売上及び各種利益予算の未達。  
（経常利益で予算比△262百万円）
- III. 組成したS P Cの連結化で、売上高が相殺される案件が発生。  
（経常利益で予算比△230百万円）

以上の結果、売上高は6,151百万円（当初予想比△8.7%）、経常利益は2,422百万円（当初予想比△40.8%）、中間純利益は1,222百万円（当初予想比△46.9%）となる見込みです。

#### ②個別

当中間会計期間の業績については、前期実績と比較して増収増益となる見込みです。当社の主力である開発型不動産の流動化スキームをはじめとするストラクチャードファイナンスのアレンジメントは引続き好調で、効率的な資金投下が出来ず予算未達見込みのプリンシパルファイナンス業務収益を一部補う見込みですが、下記のような一時的な費用等（970百万円）まで吸収できない見込みです。

- I. エフエックス・オンライン・ジャパン株式会社（以下F X O社）の株式取得に伴う費用（162百万円）。
- II. 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の繰上償還に伴う償還損及び2012年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の発行など資金調達に係る費用（386百万円）。

- Ⅲ. 本社移転に伴う費用（引越費用及び固定資産除去損で50百万円）。
- Ⅳ. A S A P社の減損処理に伴う株式評価損（64百万円）及び同社への貸付金に対する貸倒引当金計上（307百万円）。

以上の結果、売上高は4,667百万円(当初予想比△7.4%)、経常利益は2,854百万円（当初予想比△16.1%）、中間純利益については1,432百万円（当初予想比△22.5%）となる見込みです。

## (2) 通期業績予想修正の理由

### ① 連結

当連結会計年度の業績については、前期実績と比較して大幅な売上増加(94.8%増)となる見込みですが、当社個別の修正による要因の他、下記要因により利益面では小幅な増益にとどまる見込みです。

- Ⅰ. フィンテック リアルエステート株式会社については、上半期の計画未達分をリカバリーするには至らない見込みです。
- Ⅱ. Stellar Capital AG及びF X O社は、着実に業績推移しておりますが、今回計画の進捗速度を保守的に見積もりました。
- Ⅲ. 株式会社イントラスト及びA S A P社においては、通期においても本格的な売上及び利益を見込んでおりません。

以上の結果、売上高は16,032百万円（当初予想比△4.9%）、経常利益は7,606百万円（当初予想比△23.7%）、当期純利益は3,249百万円（当初予想比△29.4%）となる見込みです。

尚、平成18年12月25日付にて既に開示しておりますが、F X O社のP/L連結会計処理（平成19年9月通期決算より）により「のれん償却」及び「少数株主持分損益」によって連結の営業利益以下の利益（経常利益、当期純利益）が大きく圧迫されますので、過去の連結決算の利益と比較する際にはご留意下さい。

### ② 個別

通期業績は、前期実績と比較して増収増益となる見込みです。下半期においても、ストラクチャーファイナンスのアレンジメントは、引き続き好調に推移すると予想しております。また、プリンシパルファイナンス業務において、資金の効率的運用でさらなる収益の獲得を目指します。個別売上高については、当初予想10,800百万円を据置きます。

利益面におきましては、中間期からの一時的な費用に加え、F X O社の株式取得の銀行借入等の支払利息、IT・内部統制の整備費用が増加することから、経常利益は6,975百万円(当初予想比△9.2%)、当期純利益は3,699百万円（当初予想比△12.0%）を見込んでおります。

なお、平成17年11月10日に発表し、平成18年11月15日及び平成18年12月25日に修正いたしました中期経営計画(平成20年9月期業績予想)につきましては、関連会社を含めた下半期の動向を注視しながら、別途ご報告させていただきます。

また、当中間期の中間決算短信及び決算説明資料については平成19年5月15日に開示させていただく予定ですが、当リリースに関する補足資料として当社ホームページのIR（投資家情報）に「2007年9月期（中間・通期）業績修正について」を掲載しておりますので、ご参照下さい。

(URL : <http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/index.html>)

### <ご参考>

平成19年9月期の配当金につきましては、現在のところ、当初計画どおり1株当たり中間配当金は550円、期末配当金は750円（年間配当金1,300円）を予定いたしております。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以上